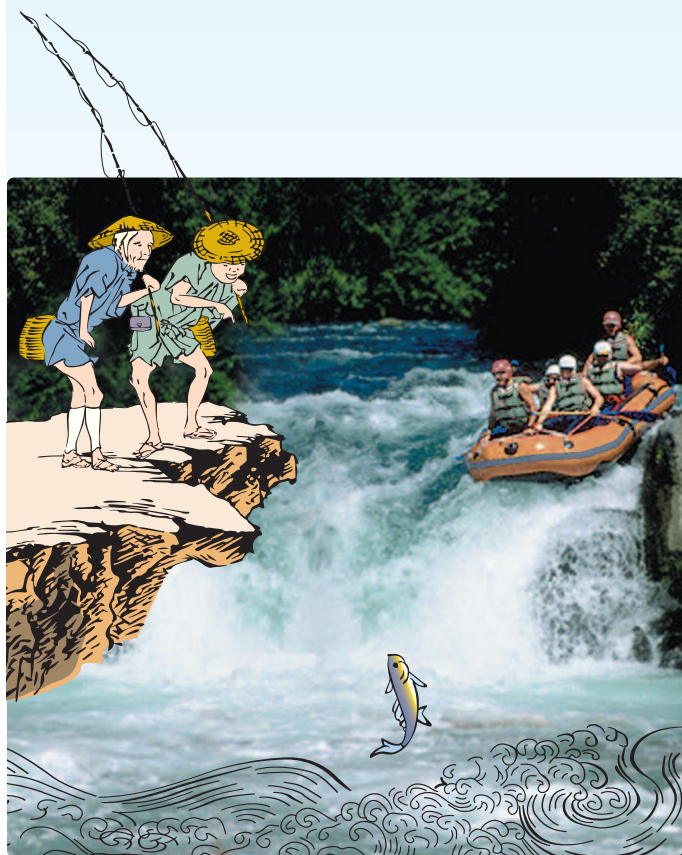


# 水の文化



「水の文化」

平成11年6月

第2号

# 水の文化

平成12年6月 第2号

# 水

## 情報との 上手なつきあい方

『水』とても身近なものなのに、ちょっと情報を集めようと思つくとどこから手をつけてよいのか戸惑ってしまいます。そこで、これから『水とのつきあい方を考えてみよう』という方のために、出発点となるとても役立つ情報源をご紹介します。

情報の海に漕ぎだす前に探す

まずは現場へフィールドでもその前に読む

集める

整理・分類する

調べてみる





富山和子「水の文化」とは何か 第2回

# 『日本の浦島、

# 中国の浦島』

日本海・丹後半島、浦島伝説を訪ねて

「京の文化は日本海文化である」と書いて日本海文化論を展開させたのは、一九七九（昭和五十四）年、雑誌『文藝春秋』に「水の文化史」を連載したことでした。当時、世の常識とはまったく逆のそんな理論を打ち出すには、実に勇気が要りました。歴史家の友人に恐る恐る相談したが、せせら笑われるばかりです。けれど、調べれば調べるほどに私の確信は強まるばかりでした。

『ミツカン水の文化センター』より

設立記念会開催レポート

「水」関連図書データベースの検索方法

# 情報の海に漕ぎだす前に 探す

当センターがホームページ上で公開している「水」専門のライブラリーデータベースです。関連図書、研究レポート、水にかかわる生活意識調査報告など、約1万3千件のデータからの検索が可能です。

生活、飲食、健康、風呂・温泉、といった身近なテーマから、環境、科学、建築、産業、歴史・風土...あらゆる領域に広がる「水」関連資料の収集を続けています。河川・湖沼の関係資料も豊富に取り揃えている他、酢や酒などの醸造分野の資料も収集しています。



「水」関連図書データベース検索方法の詳細は、本紙28ページをご覧ください。

## 情報の海に漕ぎだすための 出発点

### ミツカン水の文化センター ライブラリー

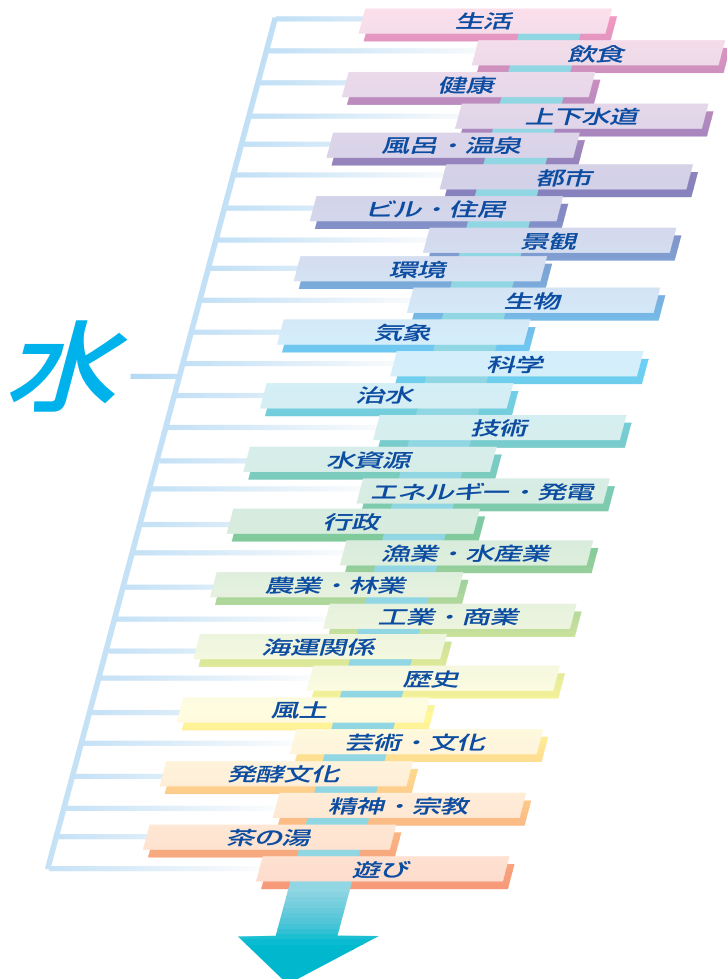
<http://www.mizu.gr.jp/>



# 水

情報との  
上手なつきあい方

ミツカン水の文化センター ライブラリーの分野別分類



水とひととのつきあい方を考える



## インターネット上の情報源

当センターのホームページ以外にもさまざまな書誌検索サイトがあります。

### 《図書館》

#### 国立国会図書館

<http://www.ndl.go.jp/navi/index.html>

収蔵されている資料のうち、最近1年間に整理された和書約10万件の書誌情報の検索が可能。



#### Libraries in the World 世界の図書館

[http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/other/other\\_libs.html](http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/other/other_libs.html)

世界約54ヶ国におよぶ図書館のリンク集。筑波大学附属図書館が提供。

#### 学術情報センター

<http://www.webcat.nacsis.ac.jp/>  
文部省学術情報センターが提供する学術書の検索サイト。

#### 日本国内の大学図書館 関係WWWサーバ

[http://www.libra.titech.ac.jp/libraries\\_Japan.html](http://www.libra.titech.ac.jp/libraries_Japan.html)

日本全国の大学附属図書館リンク集。東京工業大学附属図書館が提供。

### 《洋書》

#### Amazon.com Books!

<http://www.amazon.com/jp/>  
300万タイトルを扱っているアメリカの代表的なオンライン書店。



#### スカイソフト

<http://www.sky.co.jp/>  
一般洋書約35万冊、専門洋書約170万冊の検索・注文ができる。

### 《オンライン書店》

#### 紀伊國屋書店

#### BOOK/WEB

<http://bookweb.kinokuniya.co.jp/>  
日本一のアクセス数を誇るオンライン書店。和書約130万件、洋書約200万件の書誌情報が検索できる。購入は画面上的の簡単な会員登録が必要。書棚コーナーでは、分野ごとに本の表紙画像が並び、書店ならではの仮想体験ができる。



#### 丸善

<http://www.maruzen.co.jp/>  
和書約140万件、洋書約135万件の書誌情報が検索できる。購入は会員登録が必要。

#### 八重洲ブックセンター

<http://www.yaesu-book.co.jp/>  
国内書籍データベース(日本書籍出版協会、図書館流通センター)へのリンクあり。

#### 三省堂書店

<http://cmail.tjsys.co.jp/cyber/sanseido/>  
国内書籍データベース(日本書籍出版協会)へのリンクあり。インターネットショッピングでは、280万点の洋書データベースより検索ができる。和書・洋書ともに、購入は会員登録が必要。

#### 旭屋書店

<http://www.asahiya.com/>  
国内書籍データベース(日本書籍出版協会)、洋書通販会社スカイソフトへのリンクあり。書籍・雑誌等の購入は会員登録が必要。

#### 本屋でござ～る

<http://www.washin.co.jp/honya/>  
中小出版社約80社の書籍の検索・購入ができる。



### 《新刊書》

#### 日本書籍出版協会 Books.or.jp

<http://www.books.or.jp/>

日本書籍出版協会による新刊検索の基本サイト。1997年12月までに刊行され、現在国内で流通している約54万点の書籍を検索できる。

#### TRC図書館流通センター

[http://www.trc.co.jp/trc-japa/search/trc\\_www.asp](http://www.trc.co.jp/trc-japa/search/trc_www.asp)

1980年1月以降に出版された約70万点の国内新刊書籍を検索できる。会員に登録すれば、探した本の注文も可能。

#### トーハン本の探検隊

<http://tohan.gsquare.or.jp>

大手取次業者トーハンのページ。4万5千点の書誌データを検索できる他、会員は注文も可能。



#### 地方・小出版新刊 ニュース

<http://www.bekkoame.or.jp/much/access/actop.html>

地方出版物、小出版社刊行物の新刊リスト。

### 《古書》

#### 日本の古本屋

<http://www.kosho.or.jp/>

全国3000軒の古書店組織である「全古書連」が作成するページ。古書検索の他、東京の全古書店リストなどを紹介。



#### BOOK TOWN 神田

<http://www.book-kanda.or.jp/>

神田にある古書店を紹介。古書10万点の在庫検索の他、古書店のジャンル検索ができる。

# まずは現場でもその前に読む



水を知るために大切なことは、「水とひとがつきあう現場」を歩くこと。それを助けるのが文献です。手ぶらで現場に出ても思うような収穫は見込めません。水を捉えるための目をつくるために、まず綿密な準備を行う。それがフィールドワーク成功の秘訣です。「フィールドワークの達人」「すぐれた紀行家」と言われる人達のほとんどが、希代の読書家でもあるという事実。書齋と現場の往復が、「水とひとがつきあう現場をめぐり取る目利き」となる近道なのです。

## 富山和子の出発点

## 原典を読み 現場を歩け

三十年以上にわたり全国を歩き、「水の文化とは何か」を問い続けている

富山和子氏（評論家・立正大学教授・日本福祉大学客員教授）に、

水を考えるきっかけとなる書物を挙げていただきました。

### 『西暦2000年の地球』

アメリカ合衆国政府特別調査報告 上下

アメリカ合衆国政府編 逸見謙三・立花一雄監訳

家の光協会 1980年

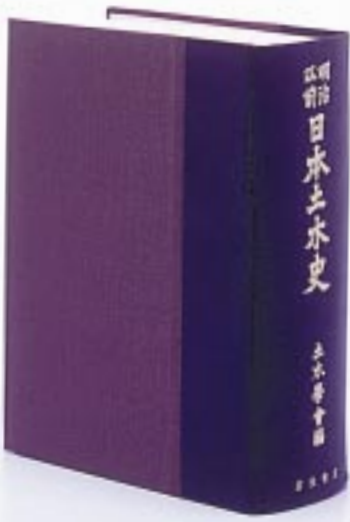
一九八〇（昭和五十五）年に発表されたいわゆる「カーターレポート」の翻訳です。人口・資源・食糧編（上巻）と環境編（下巻）から成っています。米国外カーター大統領の求めに応じた約六名の専門家が三年間にわたり行った環境問題に関する地球規模での未来予測です。世界各地の人口、気候、食糧、資源データを詳細に分析しています。こうしたシステム分析による未来予測レポートというと、ローマクラブ

による『成長の限界』（一九七二）が有名ですが、このレポートでも「世界の人口は二三年には一億人に達する速度で爆発し続け、その増加分の九パーセントが集中する開発途上国では食糧生産が停滞し、石油、水資源などの枯渇とともに、熱帯の森林の四パーセントが消滅する」と厳しい予測をしています。これが今から二十年前の予測だったので。そのころ、日本政府が何をしていitかを考えれば、米政府が総力を挙げてこのような調査を行ったことに驚かされます。そのように広い視野で遠い先を見通し、地球規模いや宇宙規模の視点に立ち、足もとの一滴の水までを考える そんな姿勢が日本の政府にも私たち一人一人にもほしいものです。その意味で本書を挙げてみました。

## 『明治以前日本土木史』

土木学会編 岩波書店 1936年

一九三二（昭和七）年に発行されたものの復刻版が一九七三（昭和四十八）年に発行されています。その序文には「土木事業は國家の興隆人類文化の發達に寄與する事甚だ大なるものあり。…王朝時代の池を掘り堤を築く等の純農土工時代より逐次發達を遂げ、中にも我邦獨特の良工法の案出せられたるもの少なからざるは、先人苦心經營の賜と謂ふべし。如斯き史実は今にして之を集録するにあらずんば、散逸して再び得難きを憂ふるなり。」とあり、全国各地の具体的な史実が学会の総力をもって集められています。河川・運河・砂防編、開墾・干拓・埋め立て・溜池・灌漑（かんがい）・排水編、港津（こうつ）・航路・航路標識編、道路・橋梁・渡場・関所編、都市造営編、城壘編、水道編、測量編、土木行政編、施工法編の十章から成る、時代別、地域別の内容には圧倒されます。まずこれを、じっくりと読んでいただきたい。読み終わると、自然と日本中を歩き、訪ねてみたいことになることでしょう。



## 『大縮尺図で見る平野』

龍瀬良明 古今書院 1988年



「本編」と「大縮尺地図」が合冊されたものです。地図を読み、現場を歩き、くらしの姿を捉えるそのプロセスが具体的に説明されており、地理学の研究者が、小さな地形の変化をどのように見ているかが分かる格好の書になっています。例えば、黒部川が取り上げられています。第一章では、一千分の一という大縮尺による等高線図の作成方法、等高線図から引き出せる事柄、黒部川扇状地の開拓史、戦後の土地整備事業や稲作農業の動向、黒部川扇状地で米の収量が激増した要因など、現場を歩かないと分からないきわめて具体的な空間的記述と、風土の体験から導かれた歴史的な記述が立体的に組み立てられています。この書を読んで、地図を眺め、日本各地の姿を想像してみてください。地図を片手に現場を歩く楽しさを教えられる本です。

## 『水の文化史』

富山和子 文藝春秋 1980年



資源論、環境論、交通論を総合させた国土利用論。このように言つと固い本に思われますが、雑誌「文藝春秋」の連載中より大きな反響を呼んだものです。歴史を見る目、風景を見る目、京や奈良の文化の感じ方、古典の読み方まで変わってくるはずですが、森林の大切さに光を当て、木曾川などの四つの川を通して、人と自然との関係について考えた書です。全国を歩き、現場を見聞きした積み重ねをもとに、それまでの水に対する常識を問い直す、現場を知る楽しさを味わってください。

## 陣内秀信の現場 フィールド

### 歴史に学び

### 現代を考える

水の視点から都市の見直しを進めてきた陣内秀信氏（法政大学教授）に、「水の都市」について学ぶための基本書を挙げていただきました。



『水網都市』  
リバーウォッチングのすすめ  
上田 篤 世界都市研究会（編）  
学芸出版社  
1987年

都市文化論の草分けとして知られる上田篤氏がまとめた、都市における水路空間の復活をテーマとする論集です。水のネットワーク化というそれまで取り上げられることのなかった発想のもとに、国内外の事例を集め、水が都市において持つ価値や意味を詳細に論じています。「水の都市再生」が何を意味するのか理解できる入門書です。

#### 土木



『日本の水景』  
篠原修  
鹿島出版会  
1997年

学生時代から全国を歩き、空間の経験を重視した景観論を構築してきた著者が、調査での記憶や体験をたどりながら、各地の水景を美しい写真と文章で紹介しています。三四郎池、近江八景、水防の風景・輪中など、日本の原風景が鮮やかに描き出されており、水辺の風景デザインに臨む基本的な考え方を学ぶことができます。

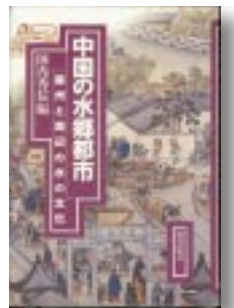
#### 建築



『水縁空間』  
渡部一二 郭中端  
堀込憲二  
住まいの図書館出版局  
1993年

水が媒体となり、人と人、環境と人とが結びつけられた空間。これが「水縁空間」です。本書では、近代化の波の中で豊かな水縁空間を守り続けてきた郡上八幡を取り上げています。用水路のシステムや利用方法、その役割などを丹念に調べ上げ、「水の町」再生への提案を行っています。水とのかかわりを基軸に据えたまちづくりを行っていく上でも、大変参考になるドキュメントレポートとなっています。

#### 建築



『中国の水郷都市』  
蘇州と周辺の水の文化  
陣内秀信（編）  
鹿島出版会  
1993年

一九八〇年代後半、日本ではウォーターフロント開発がブームとなりました。しかし、参照されるのは欧米の事例ばかり。都市には固有のコンテクストがあり、アジアにはアジア固有の水の都市像があるのではないか。こんな思いを出発点に取り組んだのが本調査研究です。中国江南地方には、かつて日本にも存在した魅力的な水の風景が残されています。

#### 歴史地理



『江戸の川・東京の川』  
鈴木理生  
日本放送出版協会  
1978年

表紙 北斎・絵本陣田川両岸一覽 すみた郷土文化資料館蔵

江戸は、明確な構想のもとに土木技術を駆使して造られた水の都だった。江戸研究の第一人者である著者が、川の役割を鍵に、江戸から東京への都市成長を読み解いていきます。江戸時代初期、掘割りをめぐらし、計画的に水の都市を造り上げた経緯や、都市空間における河岸の意味、市場の立地など、水の都市・江戸の経済空間秩序についても詳しく解説されています。江戸研究の基本書と言えるでしょう。



文明開化は鉄道だけではなく水上交通にもやってきました。陸蒸気ならぬ川蒸気が明治十年に登場したのです。江戸時代に関東一円で築かれた水運ネットワークを継承し、明治から大正にかけて発達した水上交通の花形、「蒸気船通運丸」盛衰の一代記を描いています。日本橋蠣殻町を午後六時に启航すると、隅田川を上り午後十一時に松戸に到着するといった運行表も見え、舟運見直しの気運が高まる現代から読むといろいろな発見がある書です。

## 交通史



『川蒸気通運丸物語』  
明治・大正を生き抜いた  
利根の快速船  
山本鉦太郎  
葺書房  
1980年

巨大都市東京の排水路と化した神田川を都民の手に取り戻そうと、東京新聞に百二十回にわたり連載された記事をまとめた、一冊まるごと神田川の本です。神田川の歴史や問題点について、流域の市民や専門家、行政区の首長など、それぞれの立場から思いを語っています。

## ジャーナリズム



『神田川』  
よみがえれ東京の源流  
東京新聞社会部（編）  
東京新聞出版局  
1994年

また都市に水が生きていた戦前の東京の姿を写真でつづっています。隅田川、臨海部、都心・下町、新下町、山の手・西郊と5つの地域に分け、それぞれの水辺の在り方、歴史的変遷を論じています。東京でもつい最近まで、祭り、漁業、水上交通など、日常的な風景の中に水が息づいていたことがよくわかります。「水の東京」復権への思いが込められた一冊です。

## 建築



『水の東京』  
陣内秀信（編）  
岩波書店  
1993年

水辺の風景を彩る重要な要素のひとつに「橋」があります。本書は、橋研究の第一人者である著者が、東京にある橋を丹念に調査し、それぞれの地域に根ざした橋のデザイン、様式があったことを論じています。都市の美観を考える時、かつて橋や橋の周辺を意欲的に設計していた感覚を取り戻す必要があることを提唱しています。

## 土木



『東京の橋』  
水辺の都市景観  
伊東孝  
鹿島出版会  
1986年

かつては重要とされていた、内陸河川を利用した人と物と情報の流れ。日本では、近代化の過程で、こうした財産が切り捨てられてしまいました。本書は、その反省から、首都近郊にある水がめ「印旗沼」に着目し、既存の水系を利用して東京湾と太平洋を結び、水運文化を再興しようとする雄大な構想を論じたものです。特に海外の河川舟運について詳しく紹介されており、現代における舟運復活運動の良質なドキュメントとなっています。

## 土木



『運河再興の計画』  
房総・水の回廊構想  
三浦裕二・高橋裕・伊澤柳  
（編著）  
彰国社  
1996年

一九一七（大正六）年から一九五九（昭和三四）年まで四二年間におよぶ永井荷風の日記『断腸亭日乗』。そこには、荷風の江戸東京空間が細やかに描写されています。まち歩きの人として知られる著者が、この日記を手に荷風の都市テクストを読み解き、東京の水のトボスを浮かび上がらせます。

## 文学



『荷風と東京』  
川本三郎  
都市出版  
1996年

# 集める



古賀邦雄氏。1967（昭和42）年水資源開発公団に入社。勤務のかたわら30年間にわたり水文献を収集。現在、日本河川開発調査会 筑後川水問題研究会に所属し、水に関わる啓蒙活動を行っている。

## 「水文献研究会」に聞く

水文献研究会主宰者の古賀邦雄氏。約30年にわたり「水」にまつわる膨大な書物を集めてきた、水文献収集家です。その数およそ1万冊。このデータは、当センターのライブラリーにもご提供いただいています。

1996年には、その集大成として、『水・河川・湖沼関係文献集 - これから水と河川及び環境を学ぶ人のために -』が刊行されました。古賀さんに「水文献とのつきあい方」をうかがってみました。



## 文献収集

### それは体験の積み重ね

収集をはじめられたきっかけは何だったのですか。

私が水資源開発公団に入ったのは、ちょうど水俣病などの公害が社会問題となってきた頃でした。水資源開発公団はいわば「水」をつくり出すことを仕事としています。そこで、河川の汚染など「水」に関する汚染に問題意識を持つようになり、一九七一年（昭和四十六）年に「水問題研究会」という勉強会を作り、「水」に関する資料を集めるようになりました。

日々出版される膨大な本の中から、「水」に関する文献を見つけ出すことは、容易なことではないと思います。

新刊図書については、新聞の図書案内や出版社から出される新刊図書案内、さらに専門誌や学会誌などの図書紹介、国会図書館から出される日本全国書誌を、こまめにチェックしています。水や河川に関する本があれば、手帳にメモ

を取ったり、記事の切り抜きを貼り付けます。古書については、東京に出たときに、神田の秦川堂や南海堂、慶文堂、明倫館などの古本屋で探します。本郷の泰雲堂にも、水関係の古書がおいてありますね。

それから、全国の地域研究団体が集まるシンポジウムにも参加して、情報交換することも、収集の情報源となっています。こんな方法で、年間五百〜六百冊くらいは集められますね。

地方の出版物は、全国の図書館や郷土資料室、各県の情報センターなどを回り集めます。地方の本は、やはり現地に行かないとみつけれないのです。

全国の図書館はほぼ回りました。図書館は外見と収蔵資料の質は必ずしも関係がない。立派な図書館の割には本が少なかったり、逆に本当にちつぽけな図書館でも郷土の資料が充実しているところがあります。滋賀県立図書館、徳島県立図書館は、充実していますね。

文献収集もひとつのフィールドワークですね。

そうですね。文献の収集は、ひとつひとつの体験の積み重ねなんです。私の場合、旅が好きなので、全国を巡ることも苦になりませんでした。旅先では、図書館はかりでなく、河川や湖沼にも足を運ぶようにしました。やはり、その土地の雰囲気をつままないといけない。それが自分の資産になっていくわけです。見知らぬ旅先でたまたま自分の知らない本に出会った時は、とても嬉しいですね。

## 森と川と海が 一体となった発想を

『水・河川・湖沼関係文献集 これから水と河川及び環境を学ぶ人のために』では、明治一五年から平成六年の間に発行された国内書籍約一万冊の書名、著编者名などが、発行年ごとに、三五項目から整理・分類されています。これを見ると、それぞれの時代における文献の傾向、つまり水・河川・環境に対する社会的な関心の動向を読み取ることができ、貴重な水の世相史にもなっています。

文献集をまとめる過程でいろいろな発見があったのではないですか。

社会の発展と共に水の問題も変わってきています。明治・大正・昭和初期の頃には、環境についての本はほとんどありませんでした。むしろ、農業用水や水力発電などの水開発の本が多かった。そして、昭和四十年代に公害が取りざたされ、水質悪化が問題になってからは、環境や生態、親水などの本が多くなっています。さらに環境問題の捉え方も、当初は、例えば「ある地域の公害を考える」といった、点としての環境の捉え方がされていた。でも、昭和から平成に入ると、様々な要因が絡み合った線・系として捉えられるようになり、地球規模で環境が考えられるように変わってきています。

この文献集にこめられた思いをお聞かせ下さい。

私が文献の収集を始めた頃には考えられなかったくらいに、環境破壊は深刻化し、地球規模の問題になっていきます。水については、環境面も含めて総合的かつ学際的にアプローチする必要があると思います。特に、身近な水との接点である川について、「川とは何があるべきか」という普遍的な理念、つまり「川の思想」を確立し、世界中の人々とコンセンサスを得ていく必要があると思うのです。川ばかりではなく、水は循環していくものですから、「森の思想」「海」の思想も当然あります。それは、人間も含めてすべての生物に対して悪影響を及ぼさないという考え方です。まずは、森と川と海が一体であるという発想を持つことが大切です。この文献集は、こうしたコンセンサスを得るための一助となること、そして、過去の書籍が散逸しないことを願い刊行したものです。過去は忘れ去られてしましますが、文献が残ることにより研究の対象となります。水や河川に興味のある人たちの勉強のきっかけになればと思います。



『水・河川・湖沼関係文献集』  
これから水と河川及び環境を  
学ぶ人のために  
古賀邦雄 1996年

水や河川についてこれから学ぼうとする人たちの入門となるような図書をご紹介下さい。

『川がつくった川、人がつくった川 大熊孝  
ポプラ社 1995年』は子ども向けの本ですが、川の捉え方など非常にわかりやすく書かれています。『河相論 安藝咬一 岩波書店 1951年』では、人間に人柄があるように、川にもそれぞれ特徴があるということが書かれていて、非常に興味深い内容です。それから、水と文化のかかわりということでは、『日本の川 自然と民俗 建設省・北海道開発庁 新公論社 1989年』、『水のことわざ事典 淵真吉 水資源協会 1994年』、『事典・日本人と水 日本「水」の会 新人物往来社 1994年』、『すぐに役立つ水の生活学 松下和弘 けやき出版 1992年』、『水の伝承 石上七緒 新公論社 1979年』などが取りかかりやすいのではないのでしょうか。



古賀さんのデータベース「探書手帳」  
新聞・雑誌の図書案内を貼ったり、街  
で目にした書籍情報をメモしている。

# 整理・分類する

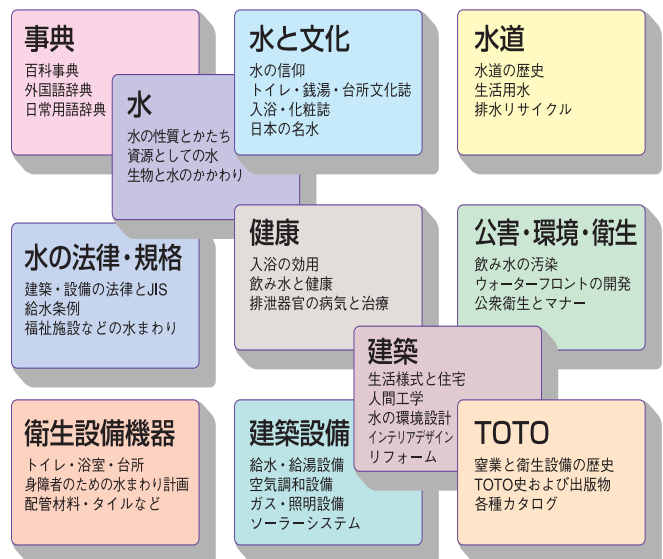


マネージャーの遠藤信行氏

## 水の専門図書館「ライブラリー・アクア」

「ライブラリー・アクア」は、水まわりの総合メーカーで知られるTOTOが1987年に開設した、日本屈指の「水」の専門図書館です。図書館の使い勝手を決める大きな要素に、その館独自の分類体系があります。通常の図書館では日本十進分類法が使われていますが、専門図書館では独自の分類で書籍を整理し、それが情報センターとしての特色でもあります。ミツカン水の文化センターにとっては先輩とも言える「ライブラリー・アクア」をたずね“水専門図書館の顔づくり”についてお話をうかがいました。

## ライブラリー・アクアで使用されている図書分類



## 「コンセンプトはくらしをとりまく水の情報館」

設立の趣旨を教えてください。

TOTOはトイレをはじめ、水まわり機器の製造にかかわっていますので、文化活動のテーマとして考えた分野も、やはり関係の深い建築と水でした。そこで、建築では『ギャラリー・間』を設け、水の分野で当館を開館することになったわけです。ライブラリー・アクアは、関連業界だけでなく、広く一般のお客様にもご利用いただくことを目的としてあります。そこで、どなたにとっても身近な、くらしの中の水という観点からもいろいろな情報を収集しています。

所蔵書籍数は約一万二千冊。この内、国会図書館にもないものが約四千冊揃っています。これらの書籍は、日本十進分類法では分類しきれないので、独自のテーマで分類しています。図書を収集する一方で、この分類の作成も進めたわけですが、「ご存知のように水に関わる書籍は、一冊の中でも各章ごとにテーマがまたがることも多く、分類を作ること、また分類に合わせて整理することもたいへんです。やはり「水」は難しい(笑)。

特に書籍数が多いテーマはありますか。

「水と文化」に分類される書籍が一番多く、全体の三割を占めています。ここは、三つの小テーマに分けられます。一つは、伝承や信仰など、水に関する心の文化。第二は、トイレ・浴室・台所など、水まわりや住まいのモノから見た物の文化。そして第三は、入浴・料理など、水まわりでの行為からみた行動の文化です。

それと、館内では、利用者の利便性を高めるために、水が使われる空間・場所として、「トイレ」「浴室・洗面所」「台所」に分けた配置もしています。やはりTOTOとはききつてもきれないトイレに関する書籍は一番多く、約二千冊にも上ります。

児童書も多く、専門のコーナーを設けています。夏休みの自由研究や宿題で来館される親子連れの方々や、学校の先生方に好評をいただいています。地域の小学校への貸出しなどについても、今後検討していきたいと考えています。

利用者は、どのような方が多いですか。

二十代、三十歳代の若い方が多いですね。職業では、設計・デザインの方や、学生が多くなっています。TOTOが運営しているというところで、やはりトイレなど水まわりの建築関係の資料を求めて来館される方が多いのかもしれないね。

## 高まる「環境」「ミネラルウォーター」への関心

「水」に対する関心のつくり変わりを肌で感じられていると思うのですが、いかがですか。

夏の渇水時には、節水の工夫について問い合わせが来たり、0157が問題になれば、台所の衛生面に関する問い合わせが増えたりと、その時、社会で話題となっている問題にあわせて関心も高まり、一般の方やマスコミからの問い

合わせも多くなります。

それと環境問題に対する関心が、全般的に高まってきていることは事実だと思います。新刊図書でも、三、四年くらい前から、「環境」「ミネラルウォーター」に関するものが増えていきますね。「地球にやさしい」といったことを意識した企業活動も増え、人々が日常的に感じる領域になってきています。蛇口をひねって健康的な水が出てくれば良いのですが、今の時代は違います。水を買う時代になりました。やはり水が生活の根幹であることに気づきはじめてたのではないのでしょうか。それが、「自分たちの努力で少しでも環境を良くしていこう」ということにつながっていると思います。資料収集の際にもこうした社会的な関心の動きは意識せざるを得ないですね。

今後の活動の展望についてお聞かせ下さい。

企業の文化活動としてスタートした図書館で

## 「水」の専門図書館ならではの「こんなお問い合わせも?!」

さまざまなお問い合わせの中には、

思いもよらない質問もあるそうです。

- ・ 和式便器がはじめて作られたのはいつか?
- ・ 便器は和洋どちらが良いのか?
- ・ トイレの擬音装置の節水効果はどれくらいあるのか?
- ・ 便座のO型とU型はどのようにして誕生したのか?
- ・ 水を使って宝石を切ることができるのか?
- ・ 氷点下でも凍らない水はあるのか?



こうしたお問い合わせにできる限りお答えできるように、日々奮闘するスタッフの小川さん。



すから、運営では、常に活動の評価基準を顧客満足に据えています。今後も、「いかに一般の方に満足して利用していただくか」を念頭に置きながら、より利用者のニーズにあったサービスの提供を心がけていきたいと思っています。「水」という同じ分野で活動する仲間同士、それぞれの特徴を活かしながら協力し、おもしろい活動展開ができればいいですね。

「ライフフリー・アクア」利用案内

開館時間：午前11時～午後7時

休館日：日曜日・月曜日・祝日

入館：無料・館内閲覧のみ

コピーサービス有り(有料)

所在地：東京都港区南青山1-24-3

TOTO乃木坂ビル5F

〒107-0062

TEL 03-3497-1010

FAX 03-3423-4085

交通：地下鉄千代田線 乃木坂駅下車

3番出口 徒歩1分

ホームページアドレス：

<http://www.toto.co.jp/aqua/>

# 調べてみる

「水とのつきあい方」を考えるのに役立つ図書館・博物館、資料室のご紹介です。

## 《図書館・資料室》

### 社団法人土木学会附属 土木図書館

土木専門図書館。所蔵書籍は、土木工学、土木技術、土木史、土木写真など。  
【所在地】〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目無番地 外濠公園内 ☎03-3355-3596  
【開館時間】9:30~17:00  
【休館日】土曜日・日曜日・祭日・第2水曜日  
【利用条件】資格 土木関係者  
料金 200円（非会員）  
【サービス】貸出不可・コピー可（有料）  
レファレンス有  
【交通】JR中央線「四ツ谷」駅より4分

### 住宅総合研究財団 図書館

住まいと都市の専門図書館。住まいと都市の歴史・意匠・構造から住生活、住文化まで蔵書約1万3千冊。  
【所在地】〒156-0055 東京都世田谷区船橋4-29-8 ☎03-3484-5381  
【利用時間】9:30~16:00  
【定休日】土曜日・日曜日・祭日  
創立記念日（11月6日）  
【利用条件】資格 大学生以上で「住まいと都市」に携わる方 / 料金 無料  
【サービス】貸出不可・コピー可（有料）  
レファレンス有  
【交通】小田急線「梅ヶ丘」駅北口よりバス01千歳船橋行き「船橋中学校前」下車1分、または小田急線「千歳船橋」駅よりバス梅01・歳22「宝性寺」下車1分

### 東京都立中央図書館

江戸・東京の郷土に関する資料を収集した「東京誌料」など、主に江戸時代から明治にかけての和漢書約25万冊が収められた特別文庫室がある。  
【所在地】〒106-8575 東京都港区南麻布5-7-13 ☎03-3442-8451  
【開館時間】9:30~20:00（土曜・日曜・祝日~17:00、月曜13:00~）  
【休館日】第1木曜日・第3日曜日  
月1回（不定期）  
【利用条件】資格 16歳以上 / 料金 無料  
【サービス】貸出不可・コピー可（有料）  
レファレンス有  
【交通】地下鉄日比谷線「広尾」駅より8分

### 日本河川開発調査会 資料室

主に河川に関する資料約3万冊。  
【所在地】〒112-0014 東京都文京区関口1-44-6ドミール青柳403 ☎03-3268-8452  
【利用時間】10:00~17:00  
【定休日】土曜日・日曜日・祭日  
【利用条件】資格 特になし（会員優先）  
料金 無料  
【サービス】貸出不可・コピー可（有料）  
レファレンス無  
【交通】地下鉄有楽町線「江戸川橋」駅より3分

### 日本水道協会 図書館

全国各地の水道史、水道に関する外国文献、上・下水道工学など。  
【所在地】〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-9 日本水道会館5F ☎03-3264-2395  
【利用時間】9:00~17:00  
【定休日】土曜日・日曜日・祭日  
【利用資格】資格 特になし / 料金 無料  
【サービス】貸出不可・コピー可（有料）  
レファレンス有  
【交通】JR中央線「市ヶ谷」駅より3分

### 農文協図書館

農林水産関係専門図書館。農林漁業、食料、環境（特に水）に関する図書約4万冊。  
【所在地】〒177-0054 東京都練馬区立野町15-45 ☎03-3928-7440  
【利用時間】10:00~17:00  
【定休日】水曜日・日曜日・祭日  
【利用条件】資格 特になし / 料金 入館無料・利用カード料初回100円  
【サービス】貸出5冊1ヵ月・コピー可（有料）  
レファレンス有  
【交通】JR中央線「吉祥寺」駅北口より西武バス「関町南2丁目」下車1分

### 民族学振興会 図書館

日本および全世界の民族学関連の図書約1万5千冊、雑誌500タイトル。  
【所在地】〒202-0012 東京都保谷市東町3-1-17 ☎0424-21-5003  
【利用時間】10:00~16:00  
【定休日】土曜日・日曜日・祭日  
【利用条件】日本民族学会会員限定公開  
レファレンスのみ一般も可  
【交通】西武池袋線「保谷」駅より6分

### 滋賀県立図書館

水に関する資料の収集を網羅的に行っている。水資料コーナーが設けられており、現在、開架資料は約1万2千冊。  
【所在地】〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱1740-1 ☎077-548-9691  
【開館時間】10:00~18:00（土曜・日曜・祝日~17:00）  
【休館日】月曜日・祝日の翌日・毎月末日  
【利用条件】資格 特になし / 料金 無料  
【サービス】貸出10冊3週間（県内在住・通勤・通学者のみ）・コピー可（有料）・レファレンス有  
【交通】JR琵琶湖線「瀬田」駅より帝産バス滋賀医大行き「文化ゾーン」下車5分

## 《古書店》

### 慶文堂書店

歴史・民俗学・考古学関係の専門古書店。地方史など。  
【所在地】〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1 ☎03-3292-0281  
【営業時間】9:30~18:30  
【定休日】日曜日

【交通】地下鉄半蔵門線・都営新宿線・都営三田線「神保町」駅より3分

### 秦川堂書店

歴史関係の古書が多い。東京の歴史、産業史など。  
【所在地】〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-3 岩波アネックス2F ☎03-3264-2780  
【営業時間】10:00~18:30（祭日11:00~17:30）  
【定休日】日曜日  
【交通】地下鉄半蔵門線・都営新宿線・都営三田線「神保町」駅より1分

### 泰雲堂

社会科学・人文科学の専門古書店。農業水利、治水など。  
【所在地】〒113-0033 東京都文京区本郷6-17-8 ☎03-3811-8940  
【営業時間】9:30~18:30  
【定休日】日曜日・祭日  
【交通】地下鉄丸の内線「本郷三丁目」より8分

### 南海堂書店

歴史と社会科学の専門古書店。部落史、農村史など。  
【所在地】〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-3 ☎03-3261-3216  
【営業時間】10:00~19:00  
【定休日】日曜日・祭日  
【交通】地下鉄半蔵門線・都営新宿線・都営三田線「神保町」駅より2分

### 明倫館書店

理工学書全般を扱う大古書店。農林・建築・土木など。  
【所在地】〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-9 ☎03-3294-0446  
【営業時間】10:30~18:30（祭日11:30~18:00）  
【定休日】日曜日  
【交通】地下鉄半蔵門線・都営新宿線・都営三田線「神保町」駅より2分

## 《地方出版物 専門書店》

### 書肆アクセス

地方・小出版流通センターの直営店。北海道・東北・関東から沖縄まで、出版物の発行地別に本棚が分類されている。  
【所在地】〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-15 ☎03-3291-8474  
【営業時間】10:00~18:30（土曜11:00~）  
【定休日】日曜日・祭日  
【交通】地下鉄半蔵門線・神保町駅より2分

年末年始、不定期の休業、昼休み等については言及していません。問い合わせ電話番号にご確認下さい。

## 《博物館》

### 水

#### 東京都水の科学館

東京都江東区有明2-4-1  
☎03-3528-2366

#### 神戸市水の科学博物館

兵庫県神戸市兵庫区楠谷町37-1  
☎078-351-4488

### 水道

#### 札幌市下水道科学館

北海道札幌市北区麻生町8  
☎011-717-0046

#### 高崎市水道記念館

群馬県高崎市若田町309-2  
0273-43-2904

#### 前橋市水道資料館

群馬県前橋市敷島町216  
☎0272-31-3095

#### 東京都水道歴史館

東京都文京区本郷2-7-1  
☎03-5802-9040

#### 下水道科学館

愛知県名古屋市中区名城1-3-3  
☎052-911-2301

#### 横浜水道記念館

神奈川県横浜市保土ヶ谷区川島町522 ☎045-371-1621

#### 広島市サービス公社水道資料館

広島県広島市東区牛田新町1-8-1  
☎082-223-1950

### 海洋

#### 函館市北洋資料館

北海道函館市五稜郭町37-8  
☎0138-55-3455

#### 留萌市海のふるさと館

北海道留萌市大町2-3-1  
☎0164-43-6677

#### 大洗海洋博物館

茨城県東茨城郡大洗町磯浜6890  
☎029-266-1444

#### 名古屋海洋博物館

愛知県名古屋市中区港町1-9  
☎052-652-1111

#### 海運資料館

新潟県佐渡郡小千町大字小千町1941-1 ☎0259-86-3191

#### 海の博物館

三重県鳥羽市浦村町大吉1731-68  
☎0599-32-6006

#### 神戸海洋博物館

兵庫県神戸市中央区波止場町2-2  
☎078-391-6751

#### 海とくらしの史料館

鳥取県境港市花町8-1  
☎0859-44-2000

#### 海の科学館

香川県仲多度郡琴平町953  
☎0877-73-3748

#### 高知県立足摺海洋館

高知県土佐清水市三崎今芝4032  
☎08808-5-0635

#### 国営沖縄記念公園海洋文化館

沖縄県国頭郡本部町字石川424  
☎0980-48-2741

### 港湾

#### 清水港湾博物館

#### (フェルケール博物館)

静岡県清水市港町2-8-11  
☎0543-52-8060

#### 横浜開港資料館

神奈川県横浜市中区日本大通3  
☎045-201-2100

### 河川

#### 十勝川資料館

北海道中川郡池田町字大通南  
☎01557-2-5713

#### さいたま川の博物館

埼玉県大里郡寄居町大字小園39  
☎0485-81-7333

#### 千葉県立大利根博物館

千葉県佐原市佐原八-4500  
☎0478-56-0101

#### 荒川知水資料館

東京都北区志茂5-41-1  
☎03-3902-2271

#### 信濃川大河津資料館

新潟県西蒲原郡分水町大字五千石  
☎0256-97-2121

#### 淀川資料館

大阪府枚方市新町2-2-13  
☎0720-46-7131

#### 中村市立四万十トンボ自然館

高知県中村市具同8055-5  
☎0880-37-4111

### 湖

#### 下諏訪町立諏訪湖博物館・赤彦記念館

長野県諏訪郡下諏訪町西高木10616-111 ☎0266-27-1627

#### 滋賀県立琵琶湖博物館

滋賀県草津市下物町1091  
☎077-568-4811

### 森林

#### 洞爺湖森林博物館

北海道有珠郡壮瞥町字中島  
☎0142-75-4400

#### 青森市森林博物館

青森県青森市柳川2-4-37  
☎0177-66-7800

#### こもれびの森・森林科学館

宮城県栗原郡花山村草木沢角間10-7 ☎0228-56-2330

#### 仁別森林博物館

秋田県秋田市仁別字務沢国有林22林班 ☎0188-27-2322

#### 森の文化博物館

岐阜県揖斐郡春日村大字美束1902-183 ☎0585-58-3111

### 農林漁業

#### 沼田町農業資料館

北海道雨竜郡沼田町南1条1-9-26  
☎01643-5-2813

#### 美幌博物館・美幌農業館

北海道網走郡美幌町字美禽253-4  
☎01527-2-2160

#### 古川市ササニシキ資料館

宮城県古川市駅前大通1-5-18  
☎0229-23-2111

#### 岩城町史料館

秋田県由利郡岩城町亀田亀田町字田町41 ☎0184-72-2048

#### 山辺町農林漁業資料館

山形県東村山郡山辺町大字大蔵字荒谷3197-19 ☎0236-66-2022

#### 東京農業大学農業資料室

東京都世田谷区桜丘1-1-1  
☎03-5477-3695

#### 愛知県農業総合試験場農業民俗館

愛知県愛知郡長久手町大字岩作三ヶ峯1-1 ☎0561-62-0085

#### 横浜市農村生活館獅子ヶ谷横溝屋敷

神奈川県横浜市鶴見区獅子ヶ谷3-10-2 ☎045-574-1987

#### 香川用水記念公園・水の資料館

香川県三豊郡財田町財田中2355  
☎0875-67-3760

#### 宮崎県農学部附属農業博物館

宮崎県宮崎市学園木花台西1-1  
☎0985-58-2898

### 船

#### 宮城県慶長使節船ミュージアム

宮城県石巻市渡波字大森30-2  
☎0225-24-2210

#### 戸田村立造船郷土資料博物館

静岡県田方郡戸田村戸田2710-1  
☎0558-94-2384

#### 加賀市北前船の里資料館

石川県加賀市橋立町イ乙1-1  
☎07617-5-1250

#### むかし下津井回船問屋

岡山県倉敷市下津井1-7-23  
☎086-479-7890

### 歴史民俗

#### 北海道立北方民族博物館

北海道網走市字潮見309-1  
☎0152-45-3888

#### 小川原湖民俗博物館

青森県三沢市三沢駅南古牧温泉沢沢公園内 ☎0176-51-1111

#### 国立歴史民俗博物館

千葉県佐倉市城内町117  
☎043-486-0123

#### 江戸東京博物館

東京都墨田区横網1-4-1  
☎03-3626-9974

#### 江東区深川江戸資料館

東京都江東区白河1-3-28  
☎03-3630-8625

#### 北方文化博物館

新潟県中蒲原郡横越町沢海6970  
☎025-385-2001

#### 国立民族学博物館

大阪府吹田市千里万博公園10-1  
☎06-6876-2151

#### 加古川流域滝野歴史民俗資料館

兵庫県東加東郡滝野町下滝野1369  
☎0795-48-3422

#### 福山市鞆の浦歴史民俗資料館

広島県福山市鞆町後地536-1  
☎0849-82-1121

#### 宮島町立宮島歴史民俗資料館

広島県佐伯郡宮島町57  
☎0829-44-2019

#### 川上村立阿武川歴史民俗資料館

山口県阿武郡川上村小市ヶ谷2319 ☎0838-54-2024

#### 瀬戸内海歴史民俗資料館

香川県高松市亀水町1412-2  
☎0878-81-4707

#### 長崎県立対馬歴史民俗資料館

長崎県下県郡厳原町今屋敷668-1  
☎09205-2-3687

# 『日本の浦島』

## 中国の浦島



玉手箱（浦嶋神社蔵）  
室町時代の作と伝えられる。

### 日本海・丹後半島、浦島伝説を訪ねて

「京の文化は日本海文化である」と書いて日本海文化論を展開させたのは、一九七九（昭和五十四）年、雑誌『文藝春秋』に「水の文化史」<sup>（注1）</sup>を連載してのことでした。当時、世の常識とはまったく逆のそんな理論を打ち出すには、実に勇気が要りました。歴史家の友人に恐る恐る相談したが、せせら笑われるばかりです。けれど、調べれば調べるほどに私の確信は強まるばかりでした。

以来、私の日本海側に対する思いには、特別のものがありません。自分で発見し、一人で驚き、そして勇気を出して世に問うたという作業の故でしょう。

それ故機会を見ては日本海側を歩き、自己

の理論を検証したいとつとめました。そんな中で、浦嶋神社<sup>（注2）</sup>に出会うことになりました。

そこでこのたびは、古くからの友人であり中国伝承文学の権威、君島久子さんに一緒にしていただき、改めて丹後半島を旅しながら中国の浦島についてお話を伺うことにいたしました。

### 中国の浦島伝説

富山 君島さん、もう十年以上前になりますか。『日本再発見 水の旅』<sup>（注3）</sup>の出版記念に「水を聴き、遊ぶ会」というパーティを開

いたことがありました。東京・一ツ橋の如水会館で。日頃お世話になっている方や水の関係者が二百数十人いらして下さった。国鉄総裁をされた高木文雄さん、国土事務次官をされた下河辺淳さん、水公団総裁をされた山本三郎さん、朝日新聞副社長の伊藤牧夫さんなどマスコミ関係の友人たち、実に多彩なお顔ぶれでした。

その会で、坂本和子さんが『川は生きていく』を朗読して下さい、そして君島さんたちの三分間スピーチがありました。黒澤丈夫さん（群馬県上野村村長、現全国町村会会長）や、社会学者の鶴見和子さんも、司会は元NHKアナウンサーの酒井広さんでした。お礼

（1）富山和子「水の文化史」  
文藝春秋 1980年

（2）京都府与謝郡伊根町に位置し、浦嶋子（浦嶋太郎）を祭神としている。創祀年代は淳和天皇の天長二（八一五）年で、延喜式神名帳所載によると「宇良神社」と記されている。浦嶋子口伝記、玉手箱（玉櫛節）など多数の宝物を蔵している。中でも、十四世紀前半の作と言われる「浦嶋明神縁起」は、浦嶋を物語る日本最古の絵巻といわれ、重要文化財に指定されている。

（3）富山和子「日本再発見 水の旅」  
文藝春秋 1987年



私はダンスをご披露して、ワルツ・ムーンリバー」を踊ったのでした。会場の名称を含め、「水」すくめの楽しい会でしたが、その三分間スピーチで、君島さんは中国の浦島太郎の話をして下さいましたね。あのお話とても面白くて印象に残っていて、いつかもっと詳しくうかがいたいと思ってましたの。

この企画を思いつくには実はもう一つ、理由がありました。十数年前、この丹後地方を歩いたことがあります。「ご存知かと思いますが私、日本海文化論を世に出した言い出しっぺです、中央レベルでは、勿論以前から日本海側では、「日本海側こそ表日本」という郷土史家たちはいたのですが・・・。

文藝春秋に発表したのですが、それまでの常識と逆のことを言うのですから、大変な勇気がいりました。

だから『水の文化史』については、「シヨックを受けたのは水の関係者であるよりも歴史家たちだ」との書評を頂いたほどです。ところがこの本が出たら、今度は堰を切ったように日本海文化論が続出して、みんな昔から自分はそう言ってきた、みたいな顔をして、われもわれもと出てくる。

ともかく、あれを書くときには勇気が要った。でも、米の輸送を見ていくとどうしてもそうなるのです。それからリマン海流という海流がある。私は交通学者でもあるので、

『水の文化史』は、水の交通に光を当てた作品でもありました。

あとがきに書いたように、水問題という今日的問題からと、交通という、やはり文明の基礎、この二つをぶまえると歴史も国土も相乗的によく見えてくる。そこで、有無を言わさぬデータを積み重ねて、私の理論を説いていったのです。

でも、世に問うた責任上、まだ歩いていないところがある。そこを歩いて、自分の理論を後追いで検証していかなければ、との思いがあつて、その後、ずいぶん歩きました。そして一九八二(昭和五七)年丹後半島を歩いたのです。



京都から由良川をくだり、大江山など訪ねたのち、丹後半島を歩いて、ここが古墳地帯であること、そして浦島伝説の地であることも知りました。

郷土資料館も私の予想通り対岸との関係が想像できる資料がいっぱい、忘れられないです。宇良神社(浦嶋神社)で重文の絵巻物も見せていただいた。その絵巻物では、普通私たちが聞かされる浦島物語(注①)とは少し話が違っていた。それを思い出したので。

そこで、今回の対談で、どうせ浦島の話がうかがうなら、「一緒に宇良神社にお参りし、絵巻物も見て、それから対談、ということなら素敵だなと思いました。

君島 以前にも何度が来ましたが浦嶋神社の絵巻物は中国的で面白いですね。全体の雰囲気中国的で、完全に神仙思想(注②)が絵になっている。五色の亀とかが描かれていて道教(注③)の影響も明らかに見られるし、とても面白かった。『風土記(注④)の世界によく似ていますからね。

富山 以前、君島さんは、「中国の浦島は日本とずいぶん違っている」とおっしゃったと思いますが、まずはその辺りからお話いただけますか。

君島 両方あります。日本の浦島とよく似ている方は、洞庭湖(注⑤)のほとりの伝承なのですが、ある漁夫が、嵐の洞庭湖で水に落ち



君島 久子氏  
国立民族学博物館名誉教授

慶應義塾大学卒業。  
東京都立大学大学院修了。  
国立民族学博物館教授を経て、現在同館名誉教授。北京中央民族大学名誉教授。中国、東南アジア等で少数民族を始めとするアジア諸民族の現地調査や民間伝承の採録に従事。  
主な著訳書に『概説中国の少数民族』(三省堂)、『日本民間伝承の源流』(小学館)、『東アジアの創世神話』(弘文堂)、『アジアの民話』(講談社)他多数。『白い竜・黒い竜』(岩波書店)で産経児童出版文化賞(1965年)、『西遊記』(福音館書店)日本翻訳文化賞(1975年)、『中国の神話』(筑摩書房)産経児童出版文化賞(1983年)等受賞。民間伝承の中国及び日中比較研究の分野における第一人者。

た乙女を助けるのです。すると、乙女が「私は洞庭湖の童女です。お礼に竜宮城へお招きしましょう」と言つ。童女というのは乙姫様ですよ。その男が「竜宮の中に入っていくことができない」と言つと、童女が水を分ける珠「分水珠」をくれるのです。後日、彼がその珠を持って湖に行くと、さっと水が二つに分かれて竜宮城へ着きます。すると乙姫様が出てきて、歓待され、結婚して幸せに暮らすのですが、ふと母親を思い出し、故郷に帰りたいと言い出す。乙姫様は宝の手箱を渡して、「私に会いたくなったら、いつでもこの箱に向かつて私の名を呼びなさい。でも、この手箱を開けてはいけませんよ」と言われるのです。故郷に帰ってきてみると、村の様子もすっかり変わり、村人たちも知らない顔ばかり。それもそのはず、竜宮での一日は、人間界の十年にあたるので何百年もたっていたわけ。彼は動転して、童女に聞「つと思わず手箱を開けてしまつのです。すると、ひとすじの白い煙が立ち上り、若い漁夫は、白髪



(注①)

(4) 浦島伝説を記す最古の文献は『日本書紀』。より詳しく書かれているのは、『丹後国風土記』。逸文である。江戸時代にはお伽草子の一冊として出版され多数の読者を得た。現在のように全国的に広まったのは、巖谷小波が『日本言嚙』(明治二十九年)で子供向け読み物に改め、明治四十三年以降、国定国語教材に採用されてからのことである。

(5) 不老不死の神仙となり、永遠の生を求めよつという中国の思想。その萌芽は紀元前三世紀に認められる。東方沿海地方の方士達が広く説き、「東海中に神仙の住む三神山が存在する」という教えは秦の始皇帝や漢の武帝にも受け継がれた。後に道教の中に取り込まれていく。

(6) 道と一体となることによつて永遠不滅の生命を獲得することを理想とする中国の土着的宗教で、儒教・仏教と並び中国の三大宗教の一つ。中国古来の巫術や鬼神観念を基盤に、儒家や道家の思想哲学、仏教の教理などを複合的に取り入れ、六朝末から随・初唐期にほぼ確立した。古事記・日本書紀の記述の中にも、その影響を見て取ることが出来る。

(7) 奈良時代、元明天皇の時代に諸国の国司・郡司を総動員して作成させた郷土誌。現存するのは常陸国播磨国、出雲国、豊後国、肥前国の五ヶ国のみ。散逸してしまったものの中で、平安末から鎌倉末にかけて輩出した古典注釈家などの著書に部分的に引用されて残っているものは、「風土記逸文」と呼ばれており、浦島伝説もここから知られるものである。



浦嶋神絵巻

富山 彼女はまだ竜宮に居るわけですね。だいたい日本と同じですね。

君島 そうですね。古代中国の文明という、以前から黄河文明が代表的なものでしたが、今は長江文明が考古遺物の発掘、発見などで次第に明らかになってきたのです。ちょっととした長江文明ブームかな。そのため、洞庭湖や鄱陽湖など長江文明に属する地域からの日本への伝播の問題も、ずいぶん分かりやすくなってきたと思います。

浦島の話も洞庭湖には古くからありました。六朝時代の『拾遺記』(注10)に、洞庭山(洞庭湖の中にある)という説があります(の薬草を取りに行った男が洞庭に迷い込み、しばらく行くと別天地が開け、楽の響きや美女

たちの歓待に酔いしれ、この世のものとも思われぬ夢のような暮らしをおくった話です。男は、やがてふと故郷が恋しくなり、帰郷を思いつつ、共に暮らした美女が別れを惜しみ贈り物を与える。洞庭の出口までおくられ、故郷に帰ってみると、知る人は一人もなく

家も何も無い。村人にたずねると、三百年前に薬草を取りに行った男がそのまま帰ってこないという。男は行方不明となる。まさに山の浦島ですね。洞庭湖には、山にも湖にもこの話があるというのです。

面白いと思つのは、今の洞庭湖のお話も、竜宮の一日が現世の十年というように、時間の差がはつきりあるのです。けれども中国には「玉手箱を開けたらおじいさんになった」という話よりも、「もらった宝の箱から姫様が現れて、ずっと現世で幸せに……」という民話の方が多いですね。

富山 中国にはほかに浦島伝説があるので

君島 いろいろな地域にあります。私は、この竜宮へ訪問する話を、最後に異常な時間の差異によって破壊する「浦島型」と「現世型」(注11)とに分けたのですが、中国ではこの型を連れてきてしまう現世型が結構多いのです。



富山 和子氏

立正大学教授・日本福祉大学客員教授  
群馬県に生まれる。  
早稲田大学文学部卒業。  
水、森林を初めとする環境問題の草分けであるが、一方、都市問題、交通問題の専門家でもあり、初期の頃は交通評論家として活躍した。著書『自動車よ驕るなかれ - 日本自動車文明批判 -』(サイマル出版会、1970)は自動車文明批判の日本の代表的著作といわれる。1979年雑誌『文藝春秋』に「水の文化史」を連載するに当たっては、交通研究者、文明批評家としての視点が駆使され、人と物資、物質の移動を歴史的にとらえての国土利用論が展開された。著書『水の文化史』(文藝春秋、1980年)は『日本再発見 水の旅』(文藝春秋、1987年)と共に、今日までロングセラーとなっている。また、児童書『道は生きている』(講談社、1994年)は、交通を語る児童向けの基本書として「国語」教科書にも掲載され、中学高校入試にもしばしば出題されている。

(8) 中国・湖南省北部にある中国第一の面積をもつ淡水湖

(9) 君島久子「洞庭湖の竜女説話」『大陸古文化研究』第六集 1972年

(10) 秦の方士王嘉の選と言われる。もと十九巻二百一十編あったが散逸し、梁の蕭綺が補綴して十巻としたものが今日伝わっている。九巻までは晋代迄の遺事を記し、最後の二巻で崑崙山、九仙山などのことを記している。

(11) 君島久子『日本民間伝承の源流』小学館 1989年

現世型は竜宮での一日が現世の一年というように、竜宮との時間の差が少なく、三日間竜宮で過ごして帰ってきたら「三年間もここに居たか」と聞かれる程度です。そしていい女房をもちって幸せになる。時間の異常な経過がなければ、完全に現世型ですね。もちって帰ったら宝物が乙姫様だったりして。

富山 浦島伝説は中国のどの地域に多いのですか。

君島 長江から南の方が多くですね。竜は雨を司るものですから、北の畑作地帯も南の水田地帯も干ばつが怖いので、竜神に雨乞いはしますが、特に稲作文化との関係は深いようです。

富山 長江と聞けば、やはり稲と、稲の伝播を思わないわけにはいかないですね。最近では稲作の起源も、雲南の輿地からすつと下流に下りてきました。アジア最古の稲が出た河姆渡（かぼと）遺跡<sup>(注12)</sup>もありません。

それにしても、浦島太郎という普通私たちが、海が舞台で、「釣りに出たがなかなか魚がつかなくて・・・」という話が頭にありませんから、海の神、魚の神様かと思えますけれど、「丹後半島では、浦島伝説は稲作の神様の話」ということですね。

## 稲の伝来と徐福伝説

富山 ここには徐福伝説があるでしょう。私

がなぜ丹後半島に心を寄せてきたかといいますが、以前調査で、宇良神社や丹後郷土資料館にたづなげた際、ここが古墳地帯であることを知ったのです。古代史の里の京都府に古墳が五千ある。そのうちの実に三千五百が丹後半島にある。そんな古代史のメッカで、しかも中国や朝鮮半島と向かい合っている。対岸の満州、朝鮮からはリマン海流によって、また長江からは対馬暖流によって文化が直接来ないわけではない。それに加えて徐福です。

君島 徐福伝説というのは、有名なのは九州とか和歌山といった太平洋側ですよ。ところが丹後へ入ってきたところがおもしろい。

富山 徐福伝説については、私『日本の米』に少し書きました。太平洋側にも日本海側にもある。佐賀県の有明海岸や紀州が有名ですが、富士山や八丈島、秋田、津軽まで全国に散らばっています。でも私は特に男鹿半島に心惹かれるのです。

あそこには「なまはげの里」があるので。男鹿半島の中央に真山、本山、毛無山という三つの山がある。対岸はウラジオストックで、本山顶上には航空自衛隊のレーダー基地がある。そのそばに、徐福の塚や漢の武帝が連れてきたという五匹の家来の鬼を祀った赤神社もある。何でも、武帝は家来に連れてきた五匹の鬼に、一年に一日だけ休暇を与える。すると五匹の鬼たちは、里へ下りて羽を伸ばす。それがなまはげだと、秋田では言われているのです。

確かに、本山の頂上へ行って対岸を臨むと「ああ、遠い国まで来たなあ」と、故国を思うのかも知れない。また、日本海を航海して陸を臨むと、本山を仰ぐことになる。そうだけでなくとも男鹿半島の付け根の部分は、漂着のメッカです。日本海と朝鮮、中国との関係については、まだまだ書きたいことがあるのですが、とにかくここに徐福伝説がある。

徐福は太平洋側が有名ですが、日本中にあるところがおもしろい。そこで思い出すのは、以前、佐賀県の諸富町へ行ったら、亡くなった吉末豊助町長が徐福についてのおんちくを傾けなされた後、「おっしやっした。大陸から、五穀の種と道具をもって大勢舟でやって来る。そして、日本の近くで難破する。そうすれば散り散りになって上陸するから、上陸地点はあちこちになる」と。なるほど、海に囲まれた日本では、どこに上陸しても不思議はない。いい説明だなあと感心しました。



(12)

中国浙江省余姚河姆渡村で見つかった新石器時代早期（七千年～五千年前）の遺跡。一九七二～七九年にかけて二度の調査が行われ、六千点を超える遺物が出土した。アジア最古といわれる水稻遺存体が大量に見られている。



徐福が着岸したと言い伝えられる新井崎(にいざき)  
(写真左、下)。岬の上には徐福を奉った新井崎神社  
(写真上)が海を向いて建てられている。



徐福が来たか、その先輩格が来たか、それとももっと異なる集団がやって来たのだろうか。

紀元前三世紀頃、秦の始皇帝の命により不老長寿の薬を求めて、男女三千人を連れ、五穀の種と百工を伴ってやって来たという徐福伝説。司馬遷の『史記』にも記され、中国では実在の人として、江蘇省連雲港市徐阜村にその遺跡も発見され、「秦代に日本へ渡航し、日本建国の祖となった」とも言い伝えられている徐福。徐福伝説は、日本では佐賀県や紀州熊野をはじめとして、西は鹿児島県、宮崎県から、東は男鹿半島や津軽小泊に至るまで、安芸厳島、丹後半島、尾張熱田、三河小坂井、富士山、青ヶ島、八丈島など全国各地に広がっている。

(『日本の米』(注13)より)

浦島伝説だってあちこちにあるわけでしょう。文献は他にありますか。

君島 古文獻は少ないでしょう。この丹後の『風土記』と『日本書紀』、あとは『万葉集』『くわい』ですね。ずっと後になって『御伽草子』(注14)。浦島伝説の地というの、そう多くはないと思いますよ。この丹後が最も重要なところですよ。

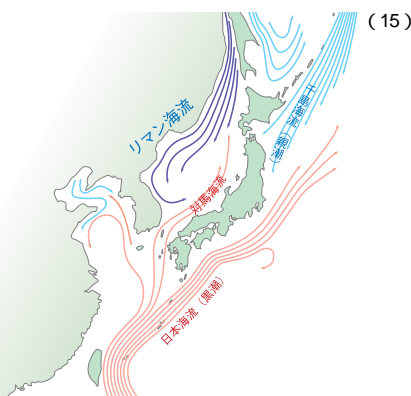
富山 海流のれば、太平洋側をのぼるルートがあるだろうし、日本海では寒流のリマン

海流が沿海州を下って朝鮮半島の東側にぶつかり、ぐるっとまわって対馬暖流といっしょになって沿岸を北上するのです。(注15)ですから、何が来てもおかしくないと思うのですが。『日本の米』に紹介しましたが、徐福は文字通り稲を日本にもってきた伝説で、中国では実在の人物ともされているようです。伝説としては日本へ来て建国の主となった。江蘇省連雲港市徐阜村に遺跡も発見されたといっています。

君島 古文獻に、「秦の始皇帝の命令で徐福

が不老不死の薬を探して東海の蓬莱山を目指して船出したが、とうとう帰らなかつた」とだけ書いてあり、あとは『三国志』の「呉志」に徐福が東方の国に出かける時、数千人の童男童女を連れていった。その子孫が数万人に増え、会稽(かいけい)へ貿易に来ると書いてある。文献としてはこのくらいですね。それがどこかという点で、いろいろな説が広がってゆく...

富山 徐福伝説は最近色々研究されていて、面白い本が出ています。ですが、いずれにせ



(15)

- (13) 富山和子『日本の米』中公新書 1993年
- (14) 室町時代から江戸時代初期にかけて作られた物語草子の総称

よ、稲作が日本に渡ってきた始まりを考えますと、面白いと思うのは、現在最古の水田といつのは北九州の唐津、菜畑遺跡と福岡の板付遺跡です。最初から谷川を堰き止めて水路を築いて、これは大変な土木事業です。要するに川を作って、水位を上げたり下げたりしながら水を引いている。山の斜面を平らにして、木竹や石を除き、畦を築いて囲み、水田を作る。水田には水の出口、入り口を作り、昨日見たような柵田を作って順々に水を送っていくわけです。そういう大土木工事で、たいへん高度な水のコントロールを行っている。そして、その水田作りがほとんど時を移さず全国に広がる。

とすれば、人と稲の種と技術が一度に大量にやってきたにちがいない。徐福伝説に心引かれるゆえんです。仮に徐福でなくても、誰



が大勢一時にやってきたのでしょうか。その誰かの代名詞が徐福というわけです。それから、おそらくその後からだと思っけれど、浦島伝説も同じようなルートでやってきたのかな。そういう歴史をみながらこの丹後半島を歩くと、なんとなく風景が違って見えてくる。私は『日本再発見 水の旅』に、「隣の福井県鳥浜貝塚で縄文中期にもう造林が始まっている」と書いたけれど、もちろんヘチマとか、雑穀の栽培も始まっている。そういう下地があるところに、稲作がある時突然に入ってきたと思うのです。

## 時を超え変容する

### 浦島伝説

富山 それにしても、昔の浦島と現代版浦島ではずいぶんと変わってきていますね。

君島 何回か変化していますけれど、『御伽草子』が一応大きな変化でしょうね。浦島太郎になったり、竜宮が出てきたり、乙姫様が出てきたり。その前は、たとえば『風土記』だったら龍姫でしょう。それから、『万葉集』も同じこと古くは水神、竜神、河伯などで、竜王や竜宮は出てこないのです。それが、仏教が入ってきて一般化するのに時間がかかりますので、いろんなところの水神が竜王になり、住まいが竜宮になるのは、唐の時代あたりなのです。ですから日本ではき

らに遅れて『御伽草子』で竜宮が出てくるんですね。ですから柳田國男さんがね、「日本の竜宮には竜王がない」とおっしゃっているのです。竜宮があつたら竜王がいるはずで、乙姫だけだったらおかしいでしょう。しかも乙姫って二番目が末娘なのに、乙姫ひとりしかない(笑)。

富山 でも今の私たちにとっては要するに乙姫様とのロマンスと、年を取ってしまつという土壇場のどんでん返しがあればいいんですよ(笑)。信仰とは関係あるのですか。

君島 お話の中に道教も出てくるし、仏教が浸透してくれば仏教も関係ありますよ。では、竜王、竜女より昔の話をしますとね。ある男が湖のほとりをほろ酔い加減でやってくとあまり暑いので、水の中に入り石を枕に眠ってしまった。すると、水神の使者が迎えに来て、立派な宮殿に伴われていくのです。水神が現れ「娘の婿を迎える」といわれ、美しい

浦島子伝記をお話しくださる、浦嶋神社宮司の宮嶋淑久さん。写真下は浦嶋神社本殿。



姫と婚礼の式を挙げる。三日間滞在後、姫からおみやげをいろいろもらって帰る。それらは現世で役立つものばかり。だから水神の世界と時間の差はない。ただ気になるのは、別れ際に水神の娘が「お別れはつらいが、十年たったら迎えにゆきます」と言う。その後は何も書いてないけど、たぶん彼は迎えがきて水中の世界へ行ってしまおうと思うの。

この話は、水神の世界が水中にあるのかどうかが描写が曖昧だけど、はっきりしている話もあるのです。『搜神記(そつじんぎ)』(注16)に、湖を渡っていた男が、突然湖の中に広い道ができて、水神からの使者が現れ宮殿に導かれる。以前に男がこの湖を渡るとき、ものを投げ入れ、水神への贈り物としたからなの。男は歓待され、「お礼に」と「如願」というものをもらって帰る。この品物は、願いをかなえるもので、おまけに、美しい女が出てきて妻になる。まさに現世型。この頃、すでに水中の世界が想定され、水神の館があり、美しい娘があり、美しい娘がいて、贈り物をくれる。ここまでそろってれば、もう、水神が竜王に、娘が竜女と呼ばれるようになるのはたやすいことでしょう。

では、この辺で、ちょっと面白い話をしましょうか。ある男が船に乗って帰る途中、美しい娘が小舟を漕いで近寄ってきた。とつぶりど目が暮れ、雨も降りだしたというのに娘は傘もない。男は娘を自分の船で雨宿りさせ、小舟を船につなぐと、娘は男の船に入って仲良く寝た。やがて雨が上がり、月明かりでふ



現代に伝わる“玉手箱”の中身

と見ると、大きな亀がひじ枕で寝ていたといふんです。

この話を学生の頃、学会で発表したら、後で男の先生たちから、「亀がいったいどういふ格好で寝ていたのか、想像したらおかしかった」と笑われました。この美女は不覚にも亀の正体がばれてしまい、川に飛び込んでしまいました。つないだ小舟は枯れ木だったということ。美女になって男を誘うスッポンの話もけっこうありますよ。

富山 亀は、日本における沼とか川の竜神みたいな意味があるのですか。

君島 さあどうかしら。今私が話している亀が美女に変身して男を誘い、共に一夜を過ごした話というのは、いくつもありますよ。六

朝の頃の伝承には、ですから亀姫が、この浦島さんを誘って行ったというのはいずれぶん昔からそのモチーフはあるわけですね。

富山 亀といつのはいつころからありがたい存在になっていくのですか？

君島 かなり古いですね。四神といわれる玄武、朱雀、青竜、白虎のうちの玄武。あれは亀で蛇が巻き付いている形をしている。霊獣の一種です。また、鱗、鳳、亀、竜の四霊のひとつにも入っていて、万年の寿命を持つといわれています。亀は大昔、殷の時代に、占いに用いられた。有名な「甲骨文字」がそれです。亀の甲に占いの文字が刻みつけられている。最も古い中国の文字です。なにしろ紀元前千三百年頃のことですから。

富山 日本の、「鶴は千年、亀は万年」というのは関係がありますか。

君島 ありますよ。その言葉は中国製ですから。「亀千歳」というのが『史記』の龜策伝にあるし、「亀は万年」も古い文献にある。「亀は齢万歳を経る」からきています。亀も鶴も長生きだ、ということから人の長命であることを、「亀鶴之寿」などと言いますものね。

## 水の神様 竜神伝説

富山 日本の池には竜の伝説が結構多いでし

(16) 晋の時代(四世紀)に書かれた、不思議な説話を収めた小説集、神仙・風神・雨神・水神・吉凶・妖怪など様々な話題に関するものが載せられている。

よ。日本の池はみんな農業用の溜池だから。君島 大陸から見たら、溜池に竜の神様がいるのは面白いですよ。でも中国の溜池にもいますよ。水のある世界なら、どこにでも。

富山 稲作ですから水の神は特別に大事なんでしょうね。洞庭湖のような大きい湖だけでなく、結構小さな池にも竜神がいるわけですよ。

二十年以上前でしたが中国の雲南省、長江流域に一ヶ月近くいたことがあるのです。解放後の、現代のダムばかり見て歩きました。小さなダムを手づくりで作って、水を引く水路の兩岸の手すりに、竜の絵、とか、じゃがいも、うさぎ、ぶた、などを象って飾ってあるのを見ました。

君島 つまり中国では古くから竜神はいるんですよ。それは雨乞いの対象になるわけですね。どうしても雨が降らないと漢代などでは竜の形を作って、それを踊らせて雨乞いをしたのです。それは今も変わりませんけれど。

富山 それは日本も同じですよ。

君島 そうそう。雨乞いは実が多い。干ばつが恐いから。でも、もし嵐で、こういいう海浜地帯であつたら、海があばれるのも恐いことですよ。そついつ時に、抑える神様が、竜神だと思つただけ。つまり竜神には「両面性

(注17)があつて、一方では慈雨をもたらし、日照りにあえぐ人々を救い、反面、荒ぶる神となつて、大洪水も引き起こす。人身御供を要求したりする。そんな時、この土地の竜神様にも祈りがあるかどうかを聞きたかつたの。

富山 雨は恵みでもあるが凶器でもある、というのが私の何百回も言つてきた講演でのキーワードの一つ。今度出した『水と緑の国日本』で、ついに活字にしました。

ところで祈りについてですが、水神様なら全国至る所にあります。日常茶飯の神様だつたし、水の足りない所にも、水の豊かな湧き水地帯にも、水の危険なところにも祀られている。水除けの神様では水天宮とか、堤防が破られそうな所に伊勢社があつたり。

しかし、人身御供の話になると、考えてみると水そのものに対し鎮まれ、と祈るのでは



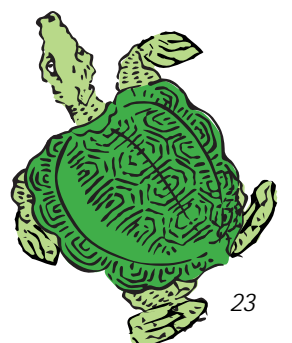
なく、どうも土木工事が絡みますねえ。水の工事の際、工事が成功するための人柱です。

例えば溜池建設のための人柱伝説。『日本の米』にも、秩父の例が出てきます。それから、洪水対象では堤防工事の人柱、砂防工事の際の人柱、これもずいぶんありますよね。橋の建設にもある。ただ流れが鎮まれというのではなく、それによつて大抵は土木工事が成功するためですねえ。

きつと日本では、一切の土地利用が水をコントロールして初めて成り立つた。「水をコントロールする社会」と私は『日本の米』で性格付けしました。そつした土木工事なしで水とつきあう土地などなかった。ただ天に「波静かに」と頼んで暮らすよつな生活などはなかった。こと土地に関しては。だからこそ源実朝の、「八大竜王海鎮めたまえ……」

(注18)は新鮮で強烈なものでしょう。ただし水上ではそうはいかない。船の上、ことに海に聞かしては、ですから海が相手なら、相模湾を渡るときは日本武尊(やまとたけるのみこと)と弟橘媛命(おとたちばなひめ)がいる。そして帰りに碓氷峠で「吾妻はや」とのたまふ。

君島 きのお話をうかがつた方が、「八大竜王の神様がいます」とおっしゃいましたね。おそらく仏教以前から、この辺りには人々に信仰されている水神があらわれて、そこに仏教の竜王が入り、合体したのかもしれないね。嵐をおさめることは、人の生活にとつて、すごく大事なことですものね。



(17) 君島久子「竜神説話の両面性」『アジア諸民族の歴史と文化』六興出版 1990年

(18) 源実朝の詠んだ和歌「時により過くれば民の嘆きなり 八大竜王雨やめたまへ」『金槐和歌集』所収





富山 海の場合は、船が沈むのが問題ですね。日本武尊が、海を渡るために妻の弟橘媛命が沈む。それで関東に上陸して「あつまはや」とのたまう。奥さんを沈めちゃって、海を鎮めるのは船の問題でしょう。陸で困るのは田んぼが流されることでしょう。どちらにせよ、水が治まってほしい。

君島 ですから、雨乞いだけでなく、鎮めることも大事ですね。弟橘媛命で思い出したのだけど、中国にも同じような話が、『搜神記』にあるのです。でもこちらの方は終わり方が違います。家族と船旅をしていた男が、河が荒れ出し船が危なくなつたので、前に河の神に娘をやる約束したことを思い出し、妻に娘を河に沈めるように言つ。自分はとても見

るにしのびず、後ろを向き目をつむっている。妻は一緒に連れてきた親戚の娘を河に沈めてしまふ。男が振り返って見ると、自分の娘がいる。それを見て男はやにわに娘を川の中に投げ込んでしまふ。嵐はおさまり、波も鎮まり、船は無事に目的地に着く。そこにはなんと二人の娘がここにこして出迎えていたというんです。面白いでしょう。これはね、河水の神が、男の義侠心に感じて、二人とも返してくれたというわけなのです。

## 水とのつきあい方が異なると伝説も異なる

君島 ところで、あなたの言われた「奥さんを海に沈めちゃって」という言葉、はつとしましたね。あの海の神は、人妻でもいいのかしら。人身御供にはいろいろあるけれど、一番多いのは、水神の場合、未婚の乙女が、子どもですよ。子どもなら童男童女どちらでもよいつつのが普通でしょう。

富山 そうそう、八岐の大蛇（やまたのおろち）だつてさらつていくのは娘ですよ。

君島 『西遊記』にも通天河に怪物がいて、毎年女の子と男の子を供犠に要求する。差し出さないと大洪水、田畑を流されるというので、悟空と八戒が子どもに化けて怪物と闘う場面がありますよ。また穀倉地帯として中国でも有名な四川盆地。ところが大昔はそうじ

やなかった。山々が高く川が急流で、一挙に流れ込んでいて、洪水ばかり起こしていたんです。巨大なダムをつくることによつて、やつとその災害をくい止めることができたんです。あなたもきつとご覧になつたと思つて、成都から西北へ向かう途中に都江堰というダムがある。あれですよ。蜀主として着任した李氷がこの事業を成し遂げた、これは史実です。二千年以上前の話です。その伝承がまた面白いですよ。

このあばれ川の水神が毎年人身御供を要求する、水神は嫁に娘を二人つつ出せというわけ。出さないと暴れるというので、村人たちは交替で自分の娘を出さねばならず、毎年泣かされている。そこへ着任した李氷という長官が、「わかつた。今度は私の娘をやる」と言つんです。自分に任せてくれと彼は言い、川面に立ち、盃をあげ、水神に対して、娘を嫁にやる儀式を行うから出てこいと言つ。だが水神は出てこない。失礼ではないかと、李氷は水神に向かって戦いを挑む。すると水神が、なんと巨大な牛になつて現れる。李氷もまた牛になつて闘う。そのとき彼は沿岸で見守っている人々と家来たちに向かって、「たすきをかけている方の牛が自分だ。負けそうになったら、たすきのない方の牛に矢を射つてくれ」と叫ぶ。猛烈

な二頭の闘い。危なくなつてくると、家来たちがたすき

のない牛に向かって矢を射る。そのうち二人の娘



もかけつけ刀をぬいて父親に加勢し、とうとう巨大な牛を倒す。実はこの娘たち、女装した二人の息子だったのです。

こうして巨大な牛、つまり水神を倒したことによつて、もう人身御供も取られないし、川もおさまったという伝説なんですね。現実には都江堰（とうえん）という水利施設をつくつて洪水の害をなくし、やがて灌漑にも利用して、穀倉地帯にしたわけです。そしてこの季氷は神様に祀れているのです。秦の昭王の頃ですから、もう紀元前の話、今から二千二百年以上前の話ですね。

富山 今の話を聞いてね、当たっているかどうかわからないけれど、日本で、大暴れをする水害は何かというと、八岐大蛇なんですね。八つの尾と八つの頭を持って背は苔むして木が生えて、毎年娘をさらうて行く。素戔嗚尊（すさのおのみこと）が退治するのですけれど、ある意味では似ています。ただ、そちらは牛になるのだけれど、こちらはお酒を飲ませて殺してしまふ。八岐大蛇は出雲では斐伊川の洪水のことだと親子代々教えられてきたの。それで、斐伊川がどんな川かというたいへんなあばれ川。あばれ川になった原因は、出雲は日本の代表的な砂鉄の山なのね。切り崩すので雨のたびに洪水になる。その土砂が下へ流れて出雲平野が出来るわけ。でも中国が牛っていうのは面白いですね。

君島 私もなぜ水神が牛かって思いました

よ。やはり竜の方が多いですからね。ところが調べてみたら意外に多いのです。この二頭の牛が水中で鬪つ伝承が。水中に入っていく豊牛や、水中から現れる牛の話まで含めると、広い地域に渡っているのです。「ああ、わかった」と思ったのは、それが自然の生活の中にとけこんでいるのを見た時でした。貴州省の苗族（ミャオソク）を調査したとき、清水江で水牛がのどかに遊んでいるのです。舟でそばを通ると、チラツとやさしい流し目をするだけ。南の中国の人たちにとって水牛が水の中で泳いだり遊んだりしているのは、日常の風景なんです。ですから水神であってもおかしくないのです。

富山 私も中国で似たような景色を見ました。

君島 現地に行くとなると思いますがね。

富山 同じ日本書紀の中で、素戔嗚尊が一度朝鮮へ行く。それで日本に帰ってきて「この国に船がなければ困るだろう」と言つて自分の髭を抜いてばらっと撒くと、それが杉になる。眉毛を抜くと楠に、胸毛を撒くと横になったとか。杉は船を作るのに使いなさい、楠も船に使いなさい、楡はお宮を建てるのに使いなさい、横は棺桶に使いなさいと、それが今の用途と一緒なのね。素戔嗚尊の息子、五十猛神（いたけるのかみ）が、天から下りてきて、たくさん木の種を持つてくる。そ

れで、天から持つてくるときに、韓国（からくに）に降りずして、筑紫の国から植え始めると書いてある。それゆえこの大八洲（おおやしま）の国は緑が絶えないのだと。今日、お宿の風呂おけが横でした。あのよう、横つて白いです。古代の棺桶もだいたいは横を使っているんです。そういうふう、洪水を退治した神が日本では、植林の神になって出てきている。

君島 面白い。中国と日本がつながっている。特に植林というのがすごい。今の時代にも通用する。日本にも、中国にも言えることですね。中国を旅して痛感することのひとつに山に木がない風景、あれには初め驚きましたね。言われてみれば、植林の伝説というのは、中国に大変少ない。そして現実にも木が少ないということ。考えさせられる問題ね。日本の場合も開発の名のもとに自然が破壊され、大洪水が起ると一緒……。

富山 そう。日本は世界に誇る森林国、そして殆ど唯一の「木を植える文化」の国、ところが今、日本人自身がそのことを忘れている。山を放置して日本の森林は危機に瀕している。私がいつも強調し、警告しているのがこの問題なのよ。

君島 ほんとうにそうね、同感よ。災害を招来するの人間、防衛するの人間というわけね。





伊根町に残る船屋

# 伝説の地は、また、 棚田地帯 対談を終えて

富山和子

紙数の都合で今回はふれることは出来ませんでしたがこの丹後の地は、海に面しては見事な船屋の漁村、そして陸を見れば、一面の棚田地帯でもあります。とはいえ船屋は、今では舟が大型化して使えず、人が使わねば家は朽ちかけ、沈みつつあります。それを、観光のため町並み保存のためコンクリートで打ち付けたりして、何とか外形ばかりは保たせていると聞きました。

一方棚田は、世が世なら田植え時には水を張って、その美しさと広がりスケールでは恐らくは日本でも指折りに数えられたことでしょう。けれど、ご多分にもれず放置され、そこそこが崩れ、雑草や雑木が侵入して廃墟化が始まっています。

最近では棚田ブームで、休日ともなればカメラマンが殺到します。けれど棚田は、それを作るにも維持管理するにも、最も過酷な労働が強いられる農業でした。

政府の試算によれば、この先中山間地の耕作放棄地は四十万ヘクタールにもほぼ、とのこと。四十万ヘクタールという農地がどのような広さか、あなたは想像できますか。例えば、福井、石川、富山の北陸三県と日本有数の穀倉、新潟県の農地を合わせても三十万ヘクタールに届くかどうか、というほどの広さです。それほどの広大な面積が、棚田地帯だけで放棄されていく。それは日本中の海岸線が侵される風景です。そして棚田が放棄されたとき、つまりは人がいなくなったとき、森林もまた放棄され、廃墟化していくということ。棚田と森林とは、そんな関係があります。

美しい水の文化、棚田。棚田についても、いつか本誌で光を当てたいと思います。



耕作放棄により荒れ始めている所も見える棚田



# 『ミツカン水の文化センター 設立記念会』開催レポート

「ミツカン水の文化センター」の設立にあたり、1月26日（火）午後1時30分より、東京青山のスパイラルホールで、設立記念会が開催されました。会場には、

大学や博物館、企業などの各方面から、“水”に想いを持つ方々にご来場をいただき、設立を記念するにふさわしい盛会となりました。

## ～プログラム～

「ミツカン水の文化センター」  
代表あいさつ

アドバイザー代表あいさつ  
評論家 富山和子

「ミツカン水の文化センター」  
の御紹介  
当センターより

第1回研究成果発表  
法政大学教授 陣内秀信  
岡本哲志都市建築研究所代表 岡本哲志

懇親パーティー

## アドバイザーを代表して富山和子氏が挨拶

当センターの設立にあたって多大なご助言をいただいたアドバイザーを代表して、富山和子氏よりご挨拶を頂戴しました。



## 陣内秀信氏・岡本哲志氏による

「第1回研究成果発表」が行われました。

「舟運を通して都市の水の文化を探る」の第1回研究成果発表が行われました。国内外の「水」との関わりが深い都市を研究対象としたもので、大阪、千葉県佐原、福井県三国、山形県大石田・酒田、中国・蘇州、タイ・バンコクでフィールドワークを実施してきました。今回の発表では、現地の人々とのふれあいやハプニングなど、フィールドワークでのエピソードをおりまぜながら、実測・ヒヤリングなどの調査の様子や、丹念な調査から見えてくる、「水と人々の暮らし」について報告が行われました。



懇談パーティー風景



陣内秀信氏・岡本哲志氏による第1回研究成果発表

# Topics

# ミツカン水の文化センター ホームページ 「水」関連図書データベースの検索方法

ミツカン水の文化センター  
ライブラリー

<http://www.mizu.gr.jp/>

2つの検索方法があります

キーワード検索・分類コード検索

で本を探ることができます。

キーワード検索

分類コード検索

## 《キーワード検索》

キーワード検索では、書名や著者名、本の  
キーワードでの検索が可能です。

### 「AND検索」

AND検索は、与えられた条件をすべて満た  
したものが、検索結果に選択されます。

例1

琵琶湖にまつわる民俗の本を探す



キーワードの欄に「琵琶湖（スペース）  
民俗」と入力し、

「AND検索」を選択します。

「検索」をクリック！



### 「OR検索」

OR検索は、与えられた条件が1つでもあれ  
ば、検索結果に選択されます。

例2

琵琶湖もしくは諏訪湖についての本を探す



キーワードの欄に「琵琶湖（スペース）  
諏訪湖」と入力し、

「OR検索」を選択します。

「検索」をクリック！



## 《分類コード検索》

分類コード検索では、図書館の書棚を眺  
めながら興味のある本に出会うように、興  
味のある分野や地域から検索することがで  
きます。検索項目を複数選ぶことができ、  
雑誌・写真など、メディアから選ぶことも  
できます。

例3

九州地方の風土をとりあげた写真集を探す



検索項目の中から、  
分野別分類の「風土」、

対象地域の「九州」、さらに

メディア別の「写真・絵画」を選択します。

「検索」をクリック！



検索結果の一覧が画面に現われます。  
書名をクリックすると著者の経歴・書籍  
の目次など、詳細情報を見ることができ  
ます。

web site

## 編集後記

ミツカン水の文化センターも本格的に始動し、設立記念会には、二名近い方々にご出席いただき、盛会裏に終えられたことを、この場を借りて御礼申し上げます。

新聞や雑誌など各方面で当センターが紹介され、本誌の送付希望や問い合わせを多数いただきました。反響の大きさに、「水」に対する社会的な期待の大きさをあらためて実感しています。

これから水のことを考えてみよう。こんな方々のために、本号の特集を組みました。当センターでは、水と人との関わりを見つめ、様々な「水と人とのつきあい方」を提案していきたいと考えています。読者のみなさまが、あらためて身の回りを振り返り、水を見つめる眼差しをつくりあげていただく一助となれば幸いです。

「水の文化」創刊号1、2ページの絵図「菱垣船図」の所蔵者である、「物流博物館」（東京都）様の記載が欠落しておりました。関係者の皆様にお詫び申し上げます。

ミツカン水の文化センター機関誌

### 「水の文化」第2号

発行日 1999（平成十一）年6月

発行 ミツカン水の文化センター

〒475 8585 愛知県半田市中村町2 6

株式会社ミツカングループ本社広報室内

電話 0569(24)5087

〈お問い合わせ〉

ミツカン水の文化センター 東京事務局

〒143・0016 東京都大田区大森北 2 2 10・4F

電話 03(5762)0244

複写転載無断



ミツカン水の文化センター